

空海 空白の七年とその先見性 に触れる

hiromum



はじめに

H市民大学の講座に「時代を見抜く先見性」というのがあって、僕も興味を持って聴講しました。
。その中で、歴史上の有名人物を12回の講義を通じて見てきましたが、中でも空海は印象的です。
。

それは当時の先端の学問（仏教、密教）を学ぶために、外国に留学した（入唐）事は勿論ですが、その為に周到な準備（語学や密教の基礎の勉強、金銭的あるいは人的環境の工面など）を行い、挫折することなく実行したことです。

謎の「空白の七年」は主に入唐の準備に費やされたのだろうか？

年譜をたどってみよう

空海の年譜をあらためてたどってみることにしよう。

- 774（宝亀5年）1歳 誕生（香川県）
- 789（延暦8年）15歳 論語などを学ぶ
- 792（延暦11年）18歳 京の大学に入学（専攻は明経道）
- 793（延暦12年）19歳 山林での修行に励む
高知県室戸での修行、口に明星が飛び込むという話
- 797（延暦16年）24歳 儒教、道教、仏教の比較思想論→
「三教指帰」を書く

-----（空白の七年）-----

- 804/3月（延暦23年）31歳 得度 入唐
- 804/5月 難波津→博多→7月田浦→～→福州に漂着→嘆願書
11月長安入り許可→12月長安入り
- 805（延暦25年）2月西明寺
インド僧三蔵に師事
一密教、梵語を習う
5月 青龍寺の恵果和尚の半年間師事、
密教の奥義を学ぶ
12月 恵果和尚が入滅(60歳)
- 806/1月全弟子を代表して碑文を起草する
3月 長安を出発
8月 明州を出港して帰国の途につく
10月 無事帰国 大宰府に滞在、
朝廷に「請来目録」を提出
- その後槇尾山、高野山を開くそして入定。

空海の生涯を年譜で追ってみたが、24歳ころから入唐する31歳までの「空白の七年」が存在します。

延暦16年(797)から延暦23年(804)までの七年間は空海がどこで何をしていたかは、どうやら明確ではないらしい。

入唐した時の語学力や密教への興味などからして、これらの勉学に励んでいたことは、間違いなようです。

しかしどこでどうして・・・の疑問は残ります。

(1)F先生の話では、吉野のあたりで唐から来た僧に語学を学んでいた。あるいは、錬金術まがいのことをして、鉱山で働き留学費を貯め込んでいたのではないとかいうことであった。

(2)実は唐に密航していたなどという説もあるらしい。

(3)「大日経」を学んでいた、らしい。

(4)漢字と梵字の理解に悩んでいたようだ。

(5)国内では勉学に限界がある。入唐する以外この限界を打破できないという思いが強くなっていった。

(6)当時の入唐は、遣唐使とともに派遣される留学僧になる以外に道はなかった。

(7)留学僧になる計画をたて、多くの人々の助言・協力を得ながらその計画の実現を図ろうと考えていた。

上記(2)の正否の程はわからないが、他の項目は十分想像できます。

入唐のための準備を進めていた、と考えるのが一般的でしょう。

遣唐使

当時の遣唐使について考えてみましょう。

(1)延暦22年に第一回遣唐使が出港したが、嵐にあって頓挫した。翌23年に第二回目が出港したとある。

(2)空海は第二回目に乗ったとされているが、実は第一回目から参加していたのではないだろうか。嵐という偶然のために第二回目が出港したが、たまたま補充した人員に空海がはいっていたとは、あまりにも運がよすぎはしないか。何事にも念入りに計画した空海であるから、第一回目からメンバーであったと考えるほうが自然のような気がします。

(3)ついたところは福州でそこから正式な入唐までは、かなりの説明と交渉が必要であったらしい。それを成し遂げた空海の語学力はやはり並ではない。それまでの勉学を裏付けています。

ともあれ念願であった遣唐使船に乗って、嵐にあって漂着こそしたが、得意の語学力と交渉力で入唐を果たしたところは、空海の真骨頂を見た思いです。

時代を見る先見性（まとめ）

今何をすべきか、自分には何ができるか、を考えた時、まず当時の先端の文化文明をもっている唐を目標に据えた。

そして遣唐使とともに派遣される留学僧になることを決心し、その為に必要な知識（語学や密教の基礎）を身につける努力をしました。

また必要な財源や人材コネクションを考慮し、自分の目標達成に突き進んで行きました。

このような空海の行動を見るとき、そこに大いなる「時代を見る先見性」を感じます。

自分が生きた時代だけでなく、次の時代までを見通している「時代を見る先見性」。

ほとんどの現代人は、それを失ってしまったように見えます。

だからこそ、それは今ももっとも必要とされていることのように思えます。

10/2010 h m